

**2009年3月期
第2四半期 中間決算説明資料
(2008年4月～9月)**

2008年11月6日

東洋合成工業株式会社

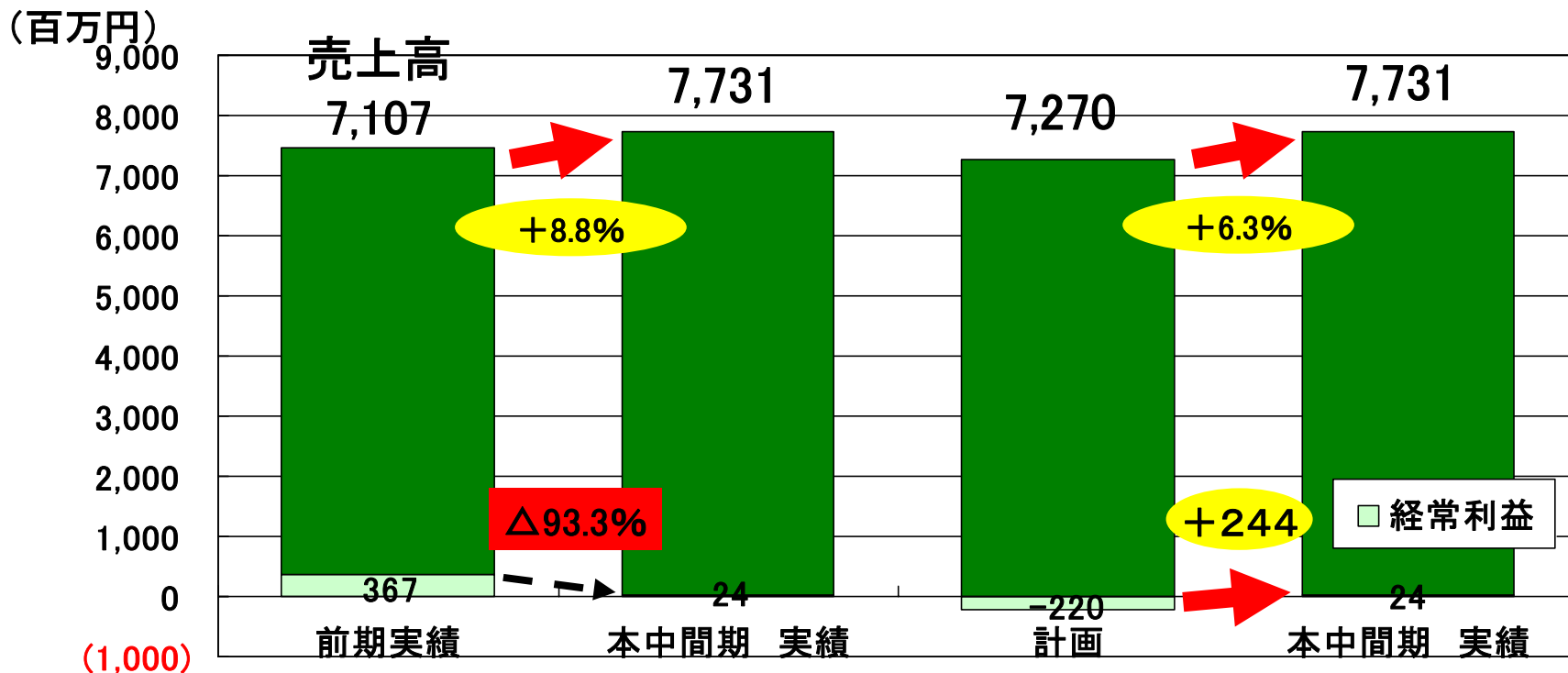
■ 目次

1. 2009年3月期第2四半期 中間決算概要 P3～16
2. 2009年3月期 通期見通し P20～24
3. 各事業の今後の展望 P25～30

1 . 2009年3月期第2四半期 中間決算概要

■ 2009年3月期第2四半期 中間決算のポイント

- ・ 売上高は、全事業部門で前年を上回り、前年比8.8%増。計画比6.3%増。
 - － 高付加価値製品へのシフト、販売価格改定の推進
- ・ 経常利益は、前年比93.3%減。計画比では244百万円上回る。
 - － 原油高による原材料費・燃料費の高騰（前年同期比+380百万円、ただし生産量増加分を除く）
 - － 千葉工場火災事故による生産キャパシティ減少による逸失利益の発生
 - － 棚卸資産の低価法適用による評価損の計上（200百万円）
 - － 計画比では、感光材事業の増産効果が寄与。

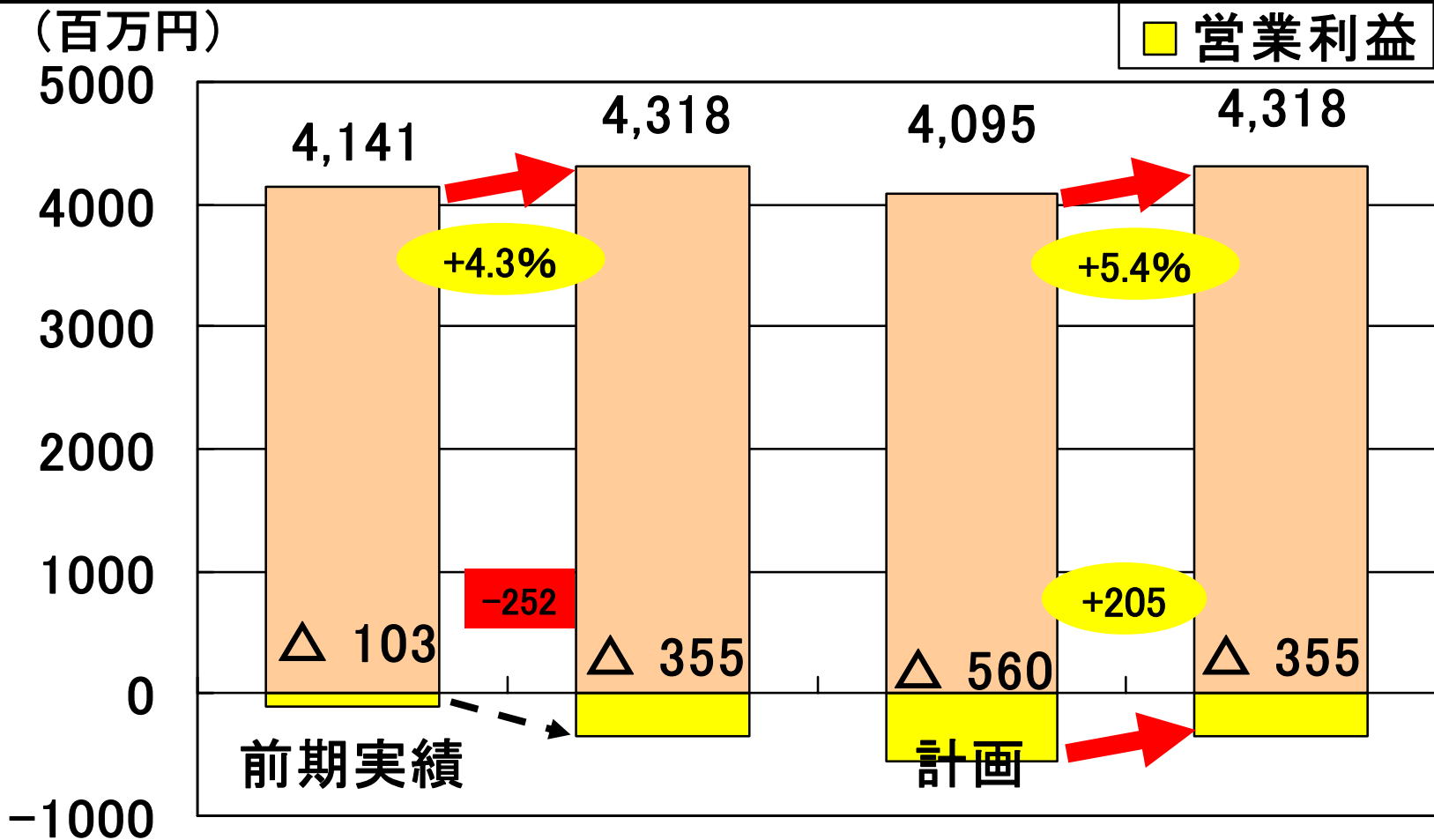


■ 全社 2009年3月期第2四半期 中間決算概要

科目 (百万円)	2008年 3月中間期 実績	2009年 3月期 第2四半期 累計実績	対前年		計画	差異
			増減	%		
売上高	7,107	7,731	+624	+8.8	7,270	+461
感光性材料	4,141	4,318	+176	+4.3	4,095	+223
化成品	2,162	2,597	+435	+20.1	2,365	+232
ロジスティック	803	816	+12	+1.5	810	+6
営業利益	417	68	△349	△83.7	△140	+208
感光性材料	△103	△355	△251	—	△560	+205
化成品	255	170	△85	△33.3	190	△20
ロジスティック	266	253	△13	△5.0	230	+23
経常利益	367	24	△342	△93.3	△220	+244
純利益	197	14	△183	△92.8	50	△36

感光性材料事業 売上高・営業利益

- 売上高は、前年比4.3%増。上半期過去最高売り上げ。営業利益は減益。
 - 売上高は、半導体用途向けを中心に増加。
 - 営業利益(前年比)では、生産キャパシティ減少、原材料の上昇、低価法適用による評価損発生で大幅減益。
 - 営業利益(計画比)では、高付加価値製品へのシフトと設備投資抑制により、当初計画を上回る。

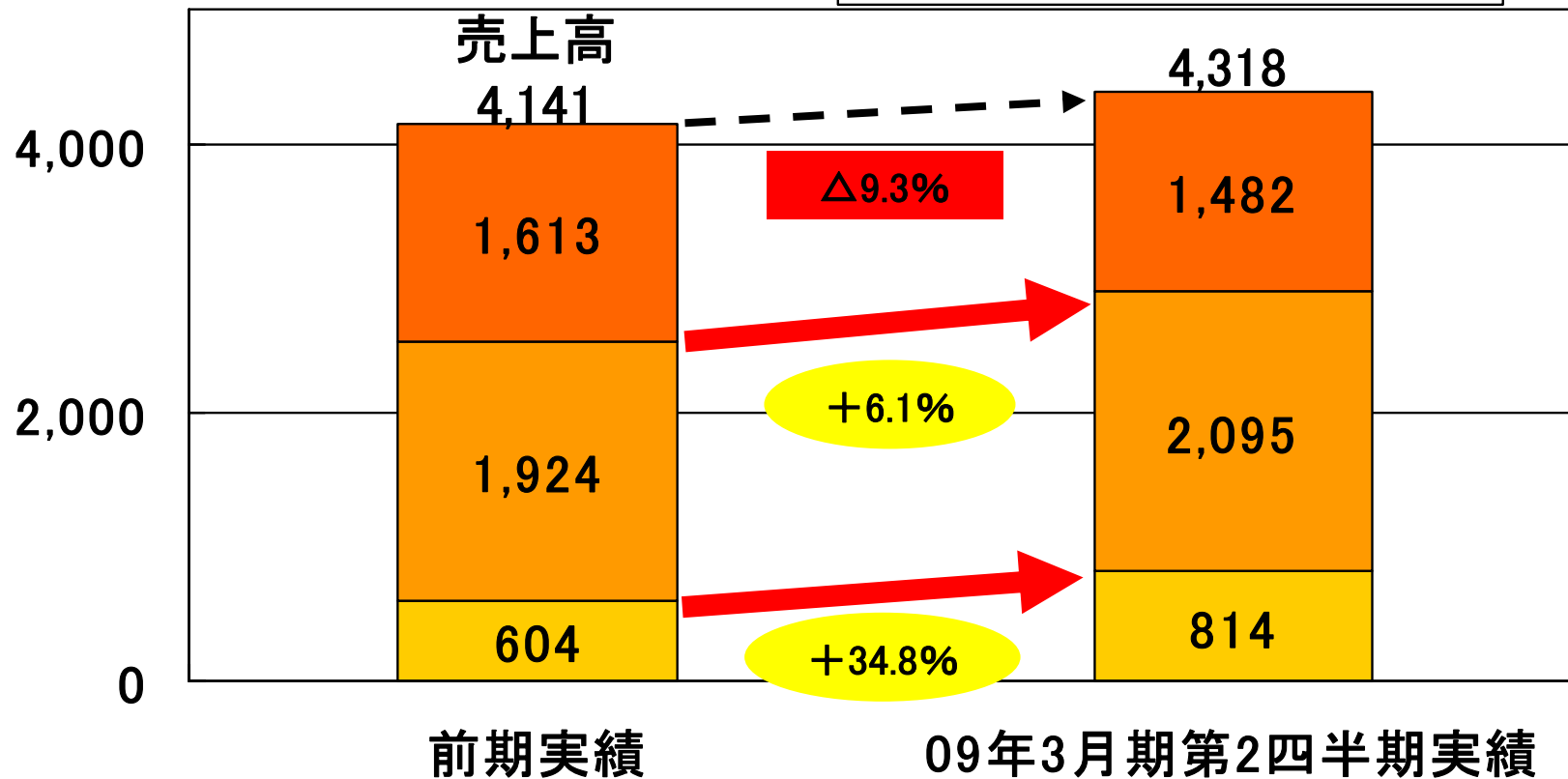


■感光性材料事業 用途別売上高

- LCD用途向けは、2Q以降の液晶パネルメーカーの生産調整が影響し9.3%の減少。
- 半導体用途向けは、ArF向け、半導体用途が好調により6.1%増加。
- その他は、設備売上の計上で増加。

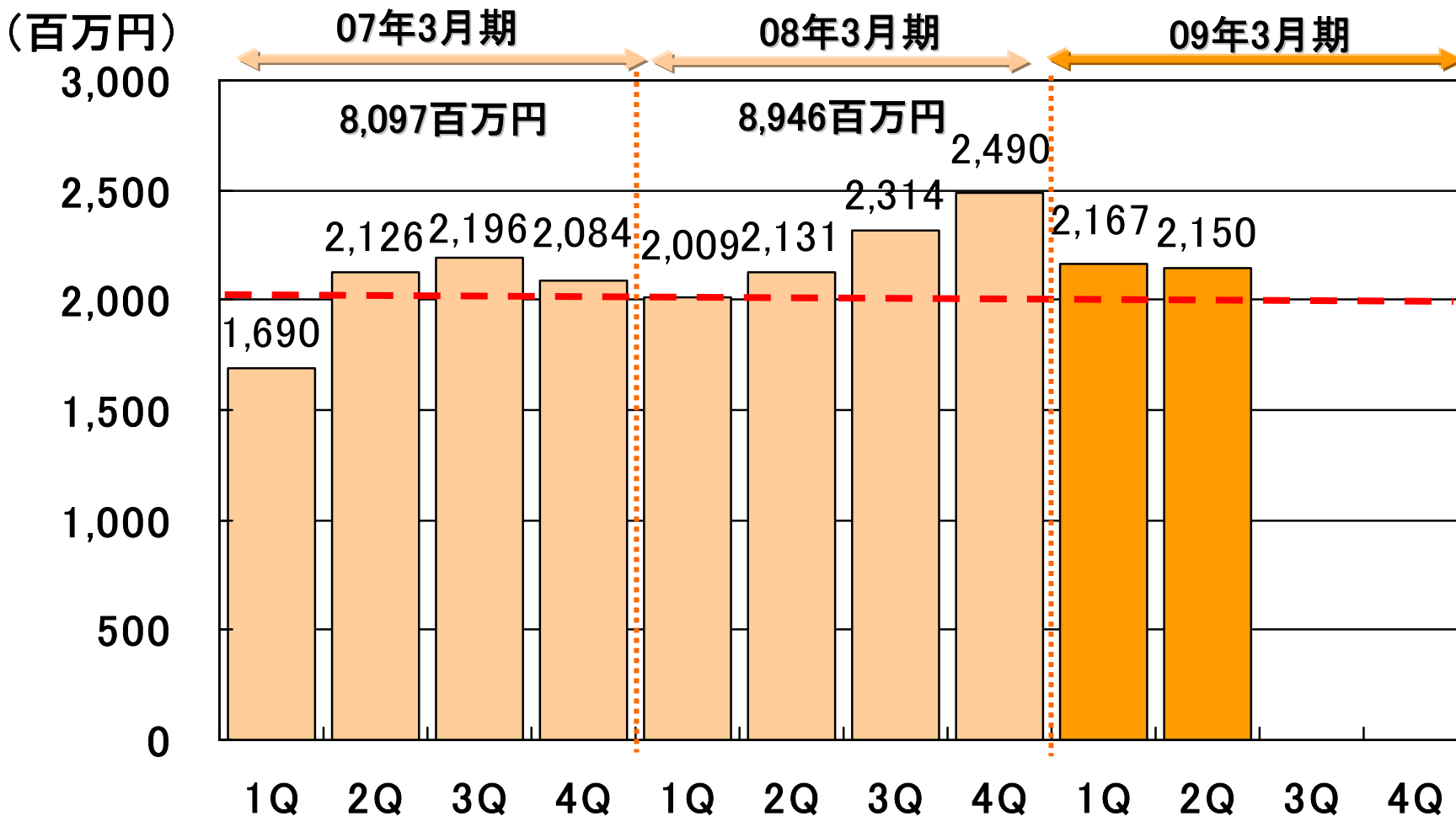
(百万円)

■ その他 ■ 半導体 ■ LCD



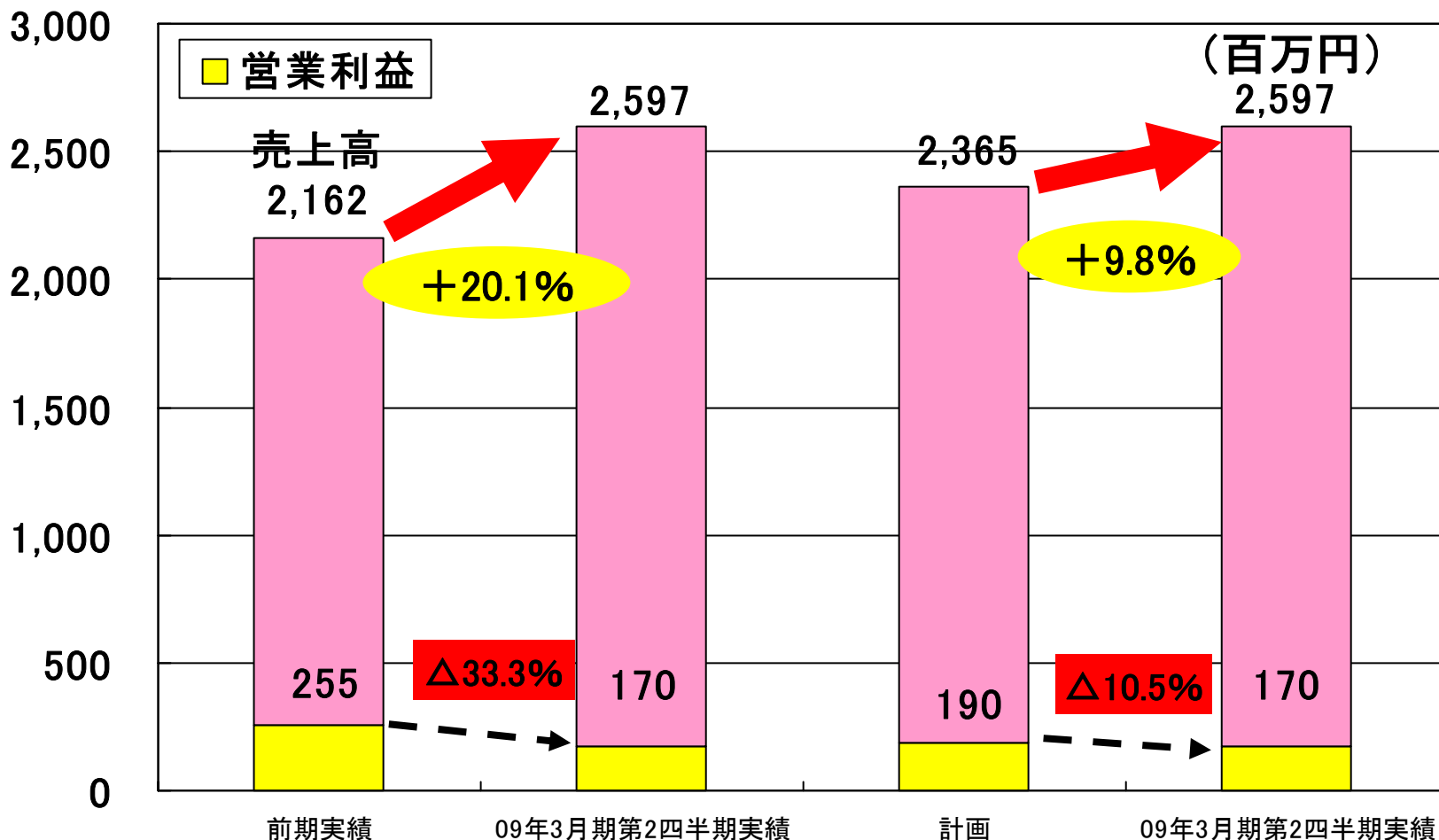
■感光性材料事業 売上高推移

- 1Q- 2Qは、過去最高で好調なスタート。
- 今後は、LCD用途向けは、液晶パネルメーカーの生産調整の影響あり。



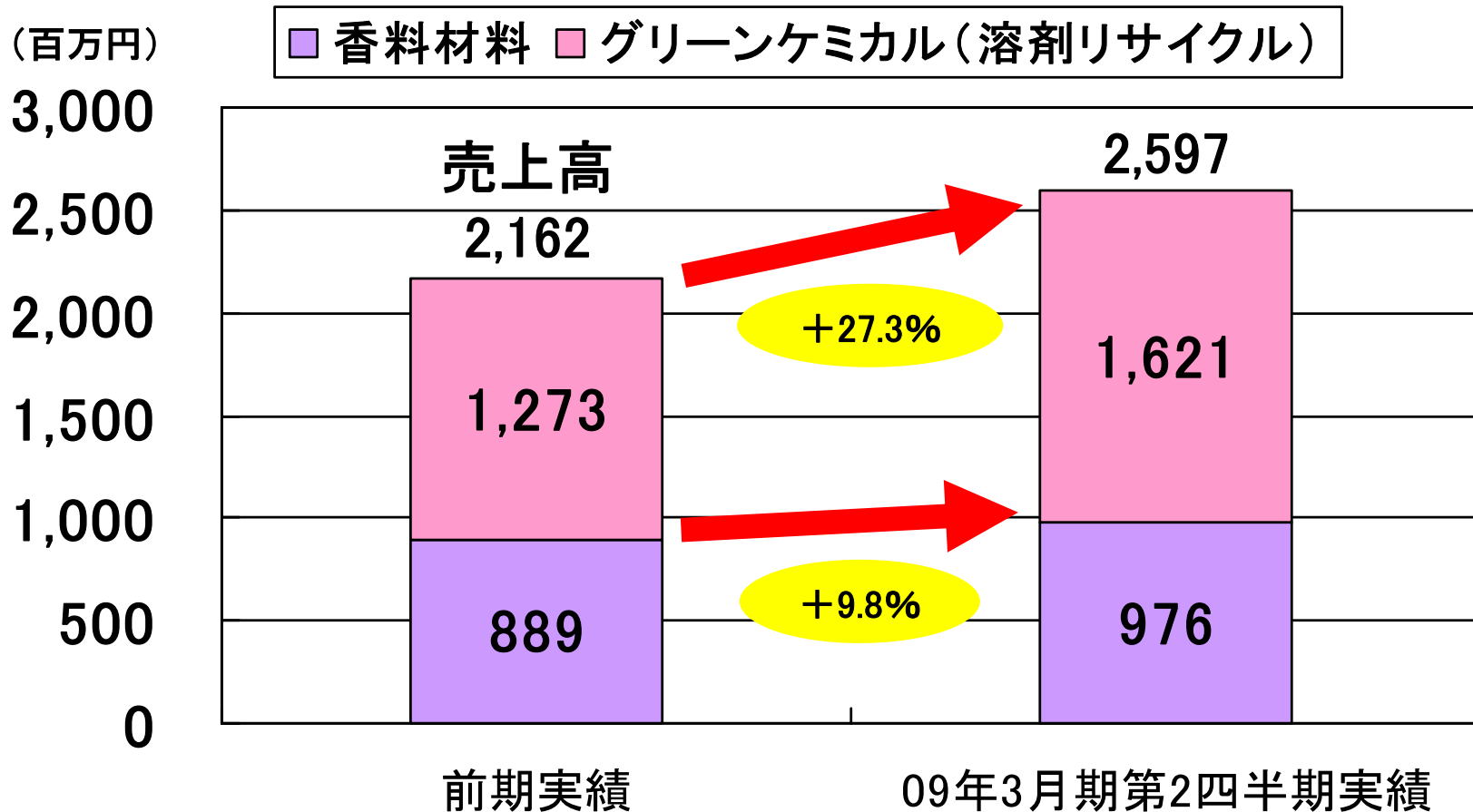
■ 化成品事業 売上高・営業利益

- 売上高は前年比20.1%増加。営業利益は前年比33.3%減少。
- 営業利益は、増産効果はあるが、さらなる原材料・燃料費の高騰や低価法の影響で減益。



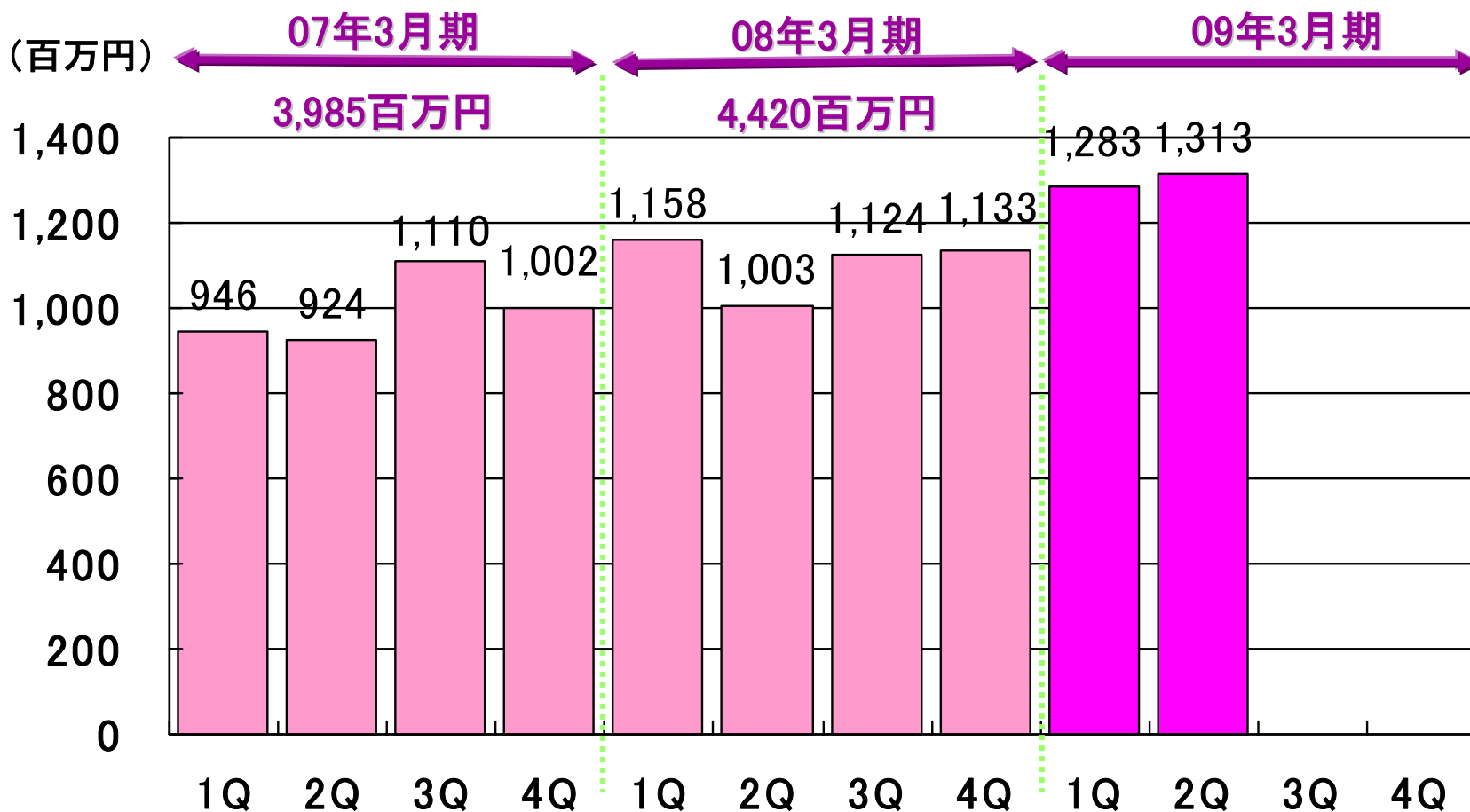
■ 化成品事業 用途別売上高

- グリーンケミカル事業は、リサイクル溶剤の需要拡大を背景に、高付加価値製品へのシフトと販売価格値上げなどにより増加。
- 香料材料事業は、BRICsの経済成長を背景に引続き好調。



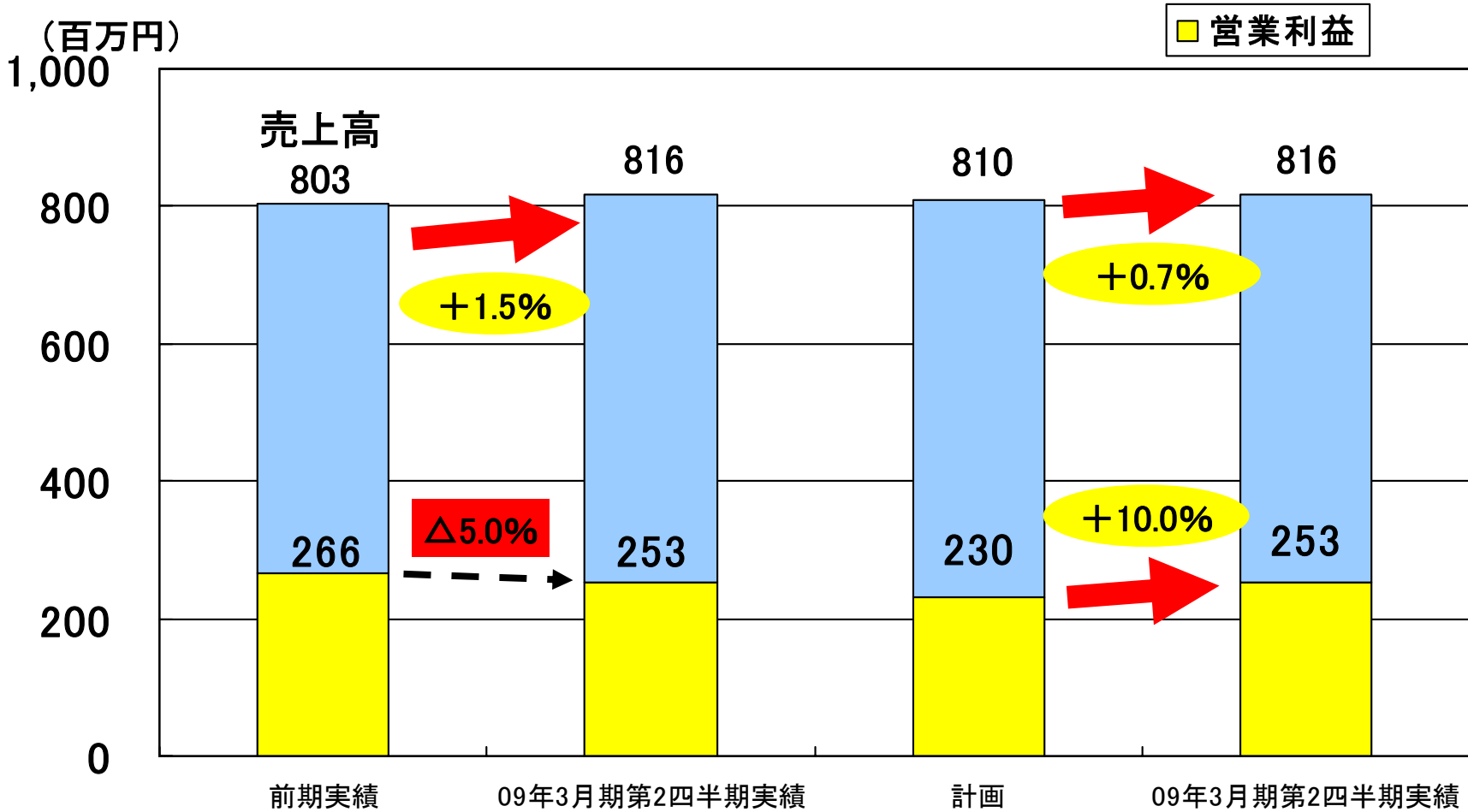
■ 化成品事業 売上高推移

- 高成長を維持。過去最高の売上高を更新中。



ロジスティック事業 売上高・営業利益

- 売上高は、荷動きの鈍化はあるものの、タンクは高稼働率を維持し前年比1.5%の増加。
- 営業利益は、タンク契約好調により、計画比超過。



■ 全社 損益計算書

- 売上拡大するも、売上原価は原材料・燃料費の高騰、低価法適用による評価損の計上によりさらに上昇。
- 販管費は、経費削減などで抑制。

科 目 (百万円)	2008年3月期 中間	2009年3月期 第2四半期	対前年比	
			増減額	%
売上高	7,107	7,731	624	8.8%
売上原価	5,661	6,577	916	16.2%
売上総利益	1,446	1,153	△293	△20.3%
販売管理費	1,028	1,085	57	5.5%
営業利益	417	68	△349	△83.7%
営業外収益	72	93	21	29.2%
営業外費用	123	137	14	11.4%
経常利益	367	24	△343	△93.5%
特別利益	0	27	27	—
特別損失	47	32	△15	△31.9%
税引前四半期純利益	319	19	△300	△94.0%
税金費用	121	5	△116	△95.9%
純利益	197	14	△183	△92.9%

原材料・燃料
費高騰、低価
法の影響、逸
失利益

火災関連
費用

■ 全社 貸借対照表

- 売上債権は、第2四半期末において売上債権流動化を実施しなかったため増加。
- 借入金は290百万円の減少。運転資金の改善でリカバリー。

科 目 (百万円)	2008年3月期 期末	2009年3月期 第2四半期末	対前年比	
			増減額	%
流動資産	9,953	9,930	△23	△0.2
現金預金	1,513	1,458	△55	△3.6
売上債権	2,983	3,401	418	14.0
棚卸資産	4,483	4,665	182	4.1
その他	973	404	△568	△58.5
固定資産	17,071	17,527	455	2.7
有形固定資産	15,731	15,945	214	1.4
無形固定資産	480	747	266	55.6
投資その他の資産	859	834	△24	△2.9
資産合計	27,025	27,458	432	1.6
流動負債	10,837	10,870	33	0.3
仕入債務	2,293	2,697	404	17.6
短期借入金	6,752	6,339	△413	△6.1
その他	1,791	1,834	42	2.4
固定負債	7,828	8,296	467	6.0
長期借入金	6,510	6,632	122	1.9
その他	1,318	1,663	345	26.2
負債合計	18,665	19,167	501	2.7
純資産合計	8,359	8,290	△68	△0.8
負債及び純資産合計	27,025	27,458	432	1.6

流動化未実施

保険金の影響

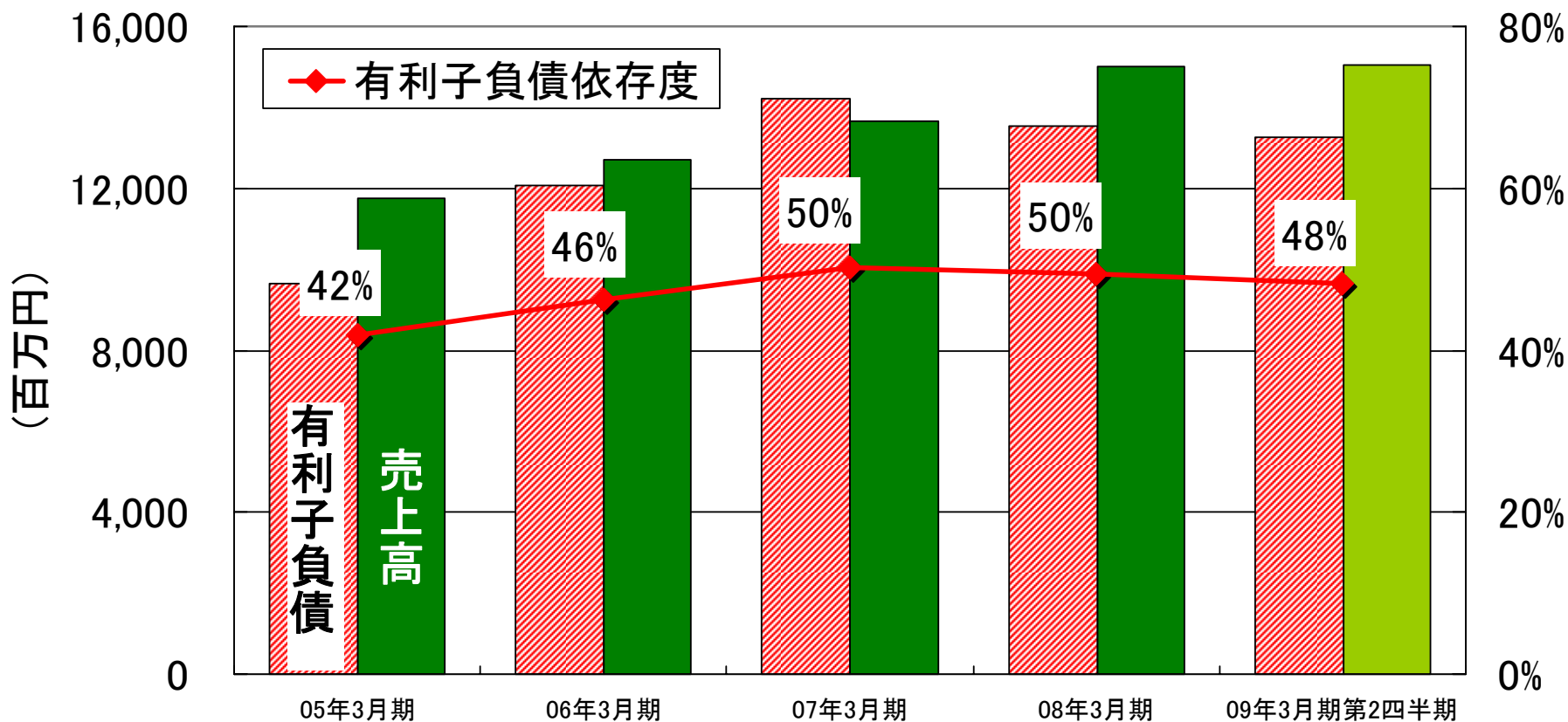
千葉工場復旧
市川工場増強システム導入
費用

原材料上昇

システム導入
費用

有利子負債依存度の推移

- 有利子負債は減少。有利子負債依存度も低下。



(注)09年3月期第2四半期では、通期売上高150億円を想定しております。

■ 全社 キャッシュフロー計算書

- ・ 営業活動によるキャッシュフローは、保険金の受領などにより前期よりも上回る。

科 目 (百万円)	2008年3月期 中間	2009年3月期 第2四半期
営業活動によるCF	1,092	1,493
税引前中間純利益	319	19
減価償却費	1,021	1,091
売上債権の増減額	89	△418
たな卸資産の増減額	△307	△208
仕入債務の増減額	151	404
その他	△181	605
投資活動によるCF	△1,524	△1,164
財務活動によるCF	959	△384
現金及び現金同等物の増減	526	△55
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,495	938

流動化
未実施

原材料の
上昇

保険金

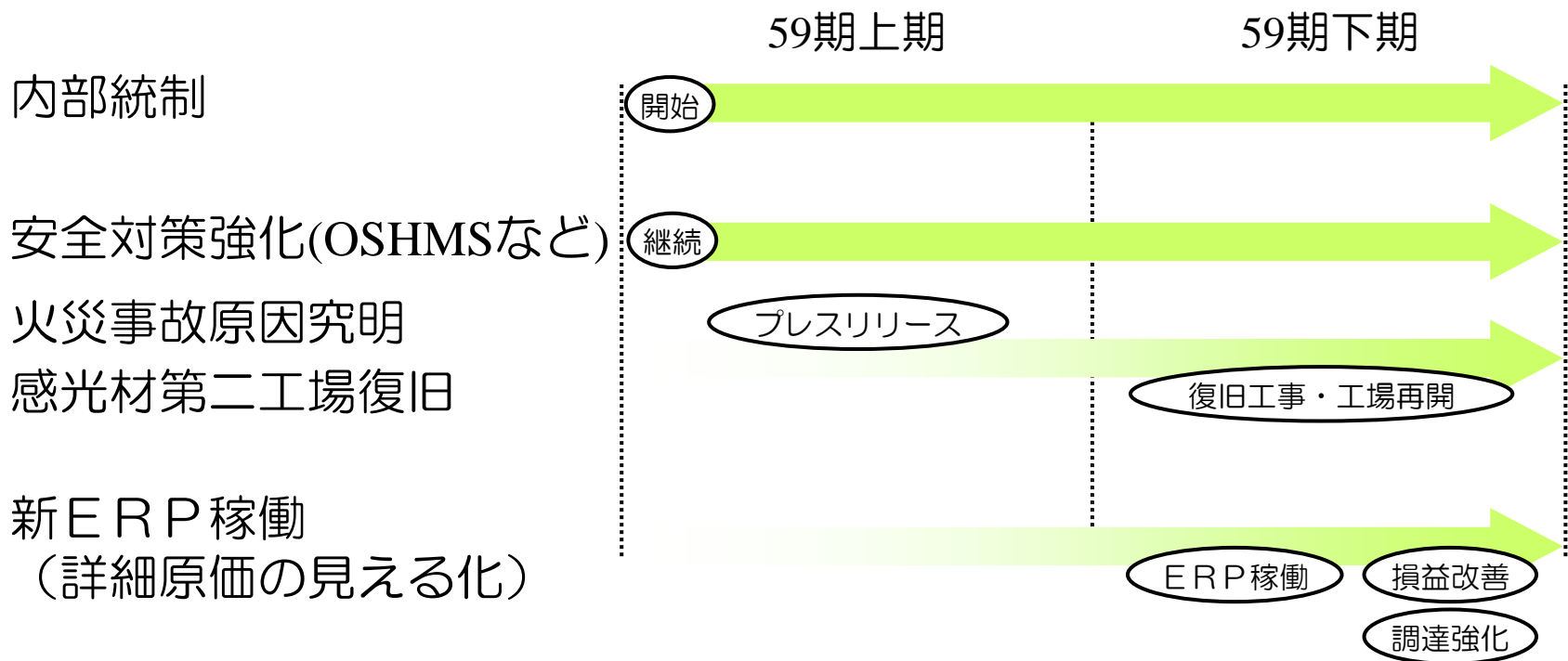
千葉工場 感光材第2工場 火災事故経過報告

	内容
平成19年11月13日	千葉工場火災事故発生
平成20年1月18日	感光材第2工場 1系統稼働開始
平成20年6月下旬	『特定非営利活動法人安全工学会』 から事故原因について報告
平成20年11月上旬	千葉工場全面稼働

今後かかる事故を二度と起こさないように、万全な注意を払うこと
をお約束し、再発防止に徹底的に取り組んでまいります。

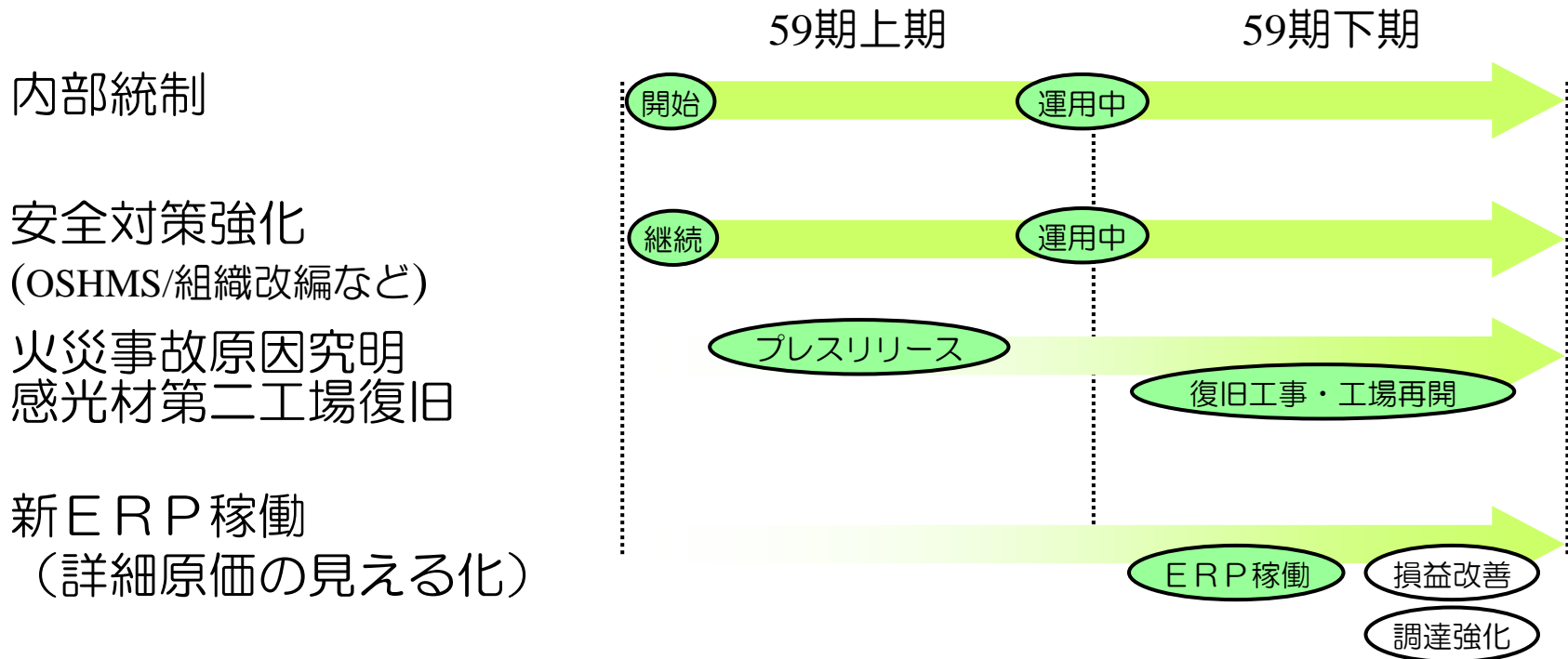
今期の重点課題(期初資料)

- 期初目標**
 - 安全対策の強化、千葉工場火災事故からの復旧、機能整備の維持と損益改善



今期の重点課題(アップデート)

- 期初目標
 - 安全対策の強化、千葉工場火災事故からの復旧、機能整備の維持と損益改善
- 期初目標施策はすべて実行。外部環境が大きく変化中、原価管理に注力



2 . 2009年3月期 通期見通し

09年3月期 通期見通し

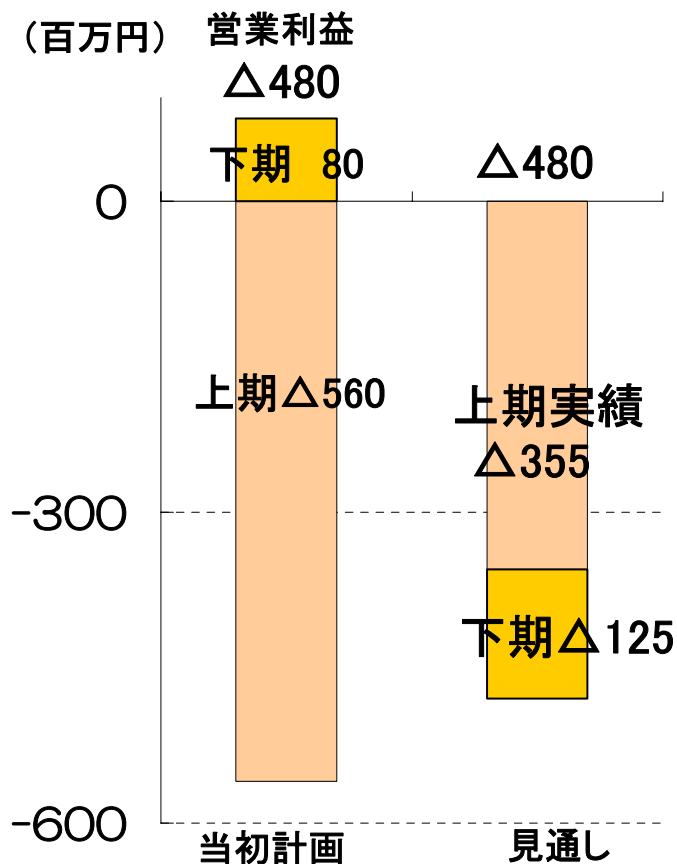
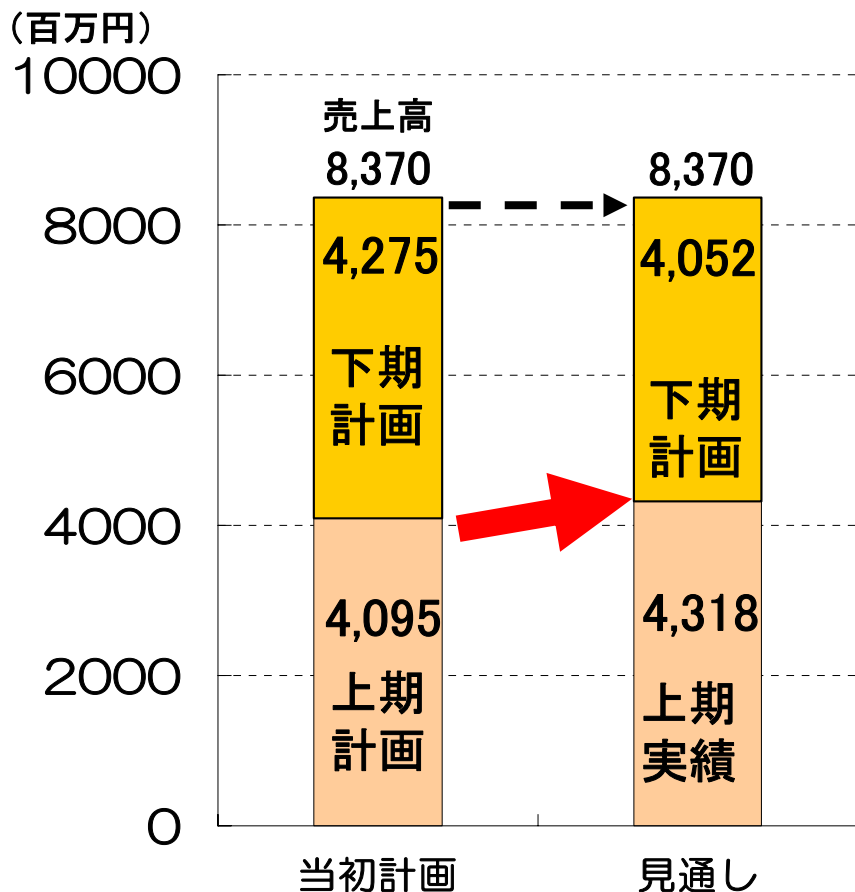
09年3月期通期見通しは当初計画から変更なし。

- ・ 09年3月期上期において当初計画を上回ったものの、外部環境を勘案し通期計画の変更はなし。
- ・ 下期の利益は、低価法採用による評価損増加の減少、千葉工場全面稼動により、上期より回復見込み。

科目 (百万円)	上期実績	下期見通し	2009年3月期 計画
売上高	7,731	7,319	15,050
感光性材料	4,318	4,052	8,370
化成品	2,597	2,443	5,040
ロジスティック	816	824	1,640
営業利益	68	332	400
感光性材料	△355	△125	△480
化成品	170	230	400
ロジスティック	253	227	480
経常利益	24	176	200
当期純利益	14	286	300

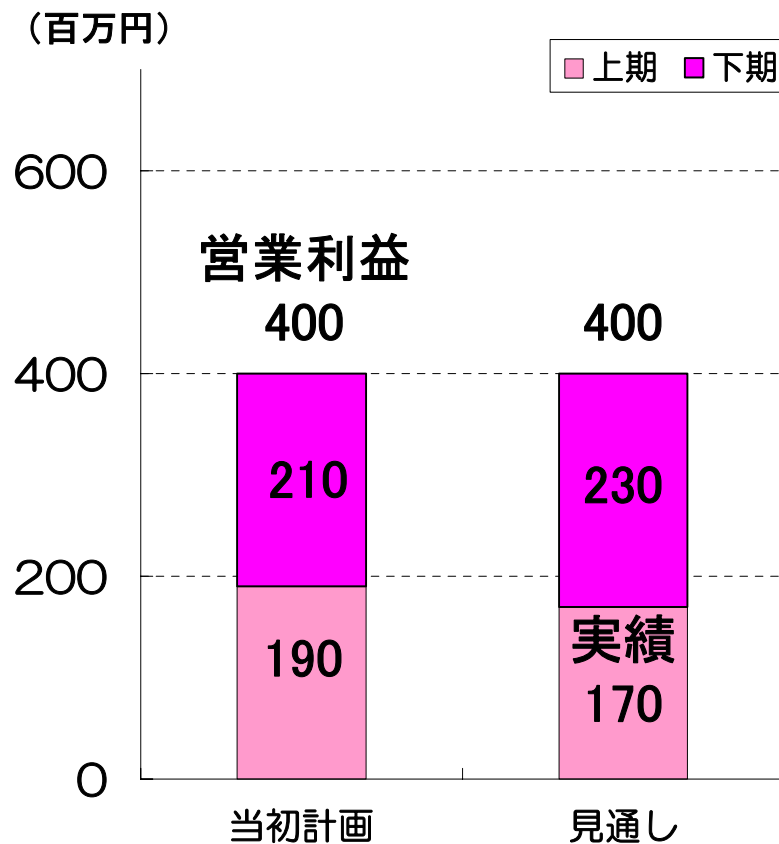
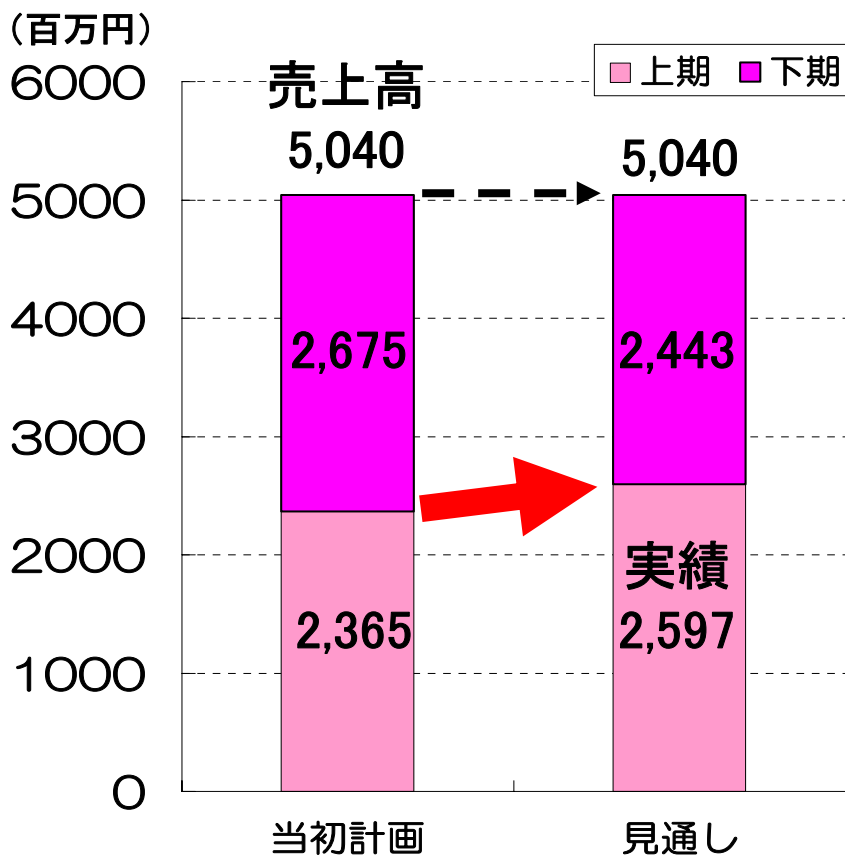
感光性材料事業 通期見通し

- 下期の売上高は、液晶パネルメーカーの生産調整の影響で減少する見込み。
- 営業利益は、千葉工場全面稼働により、上期実績を上回る見込み。
ただし、売上高減少見込みにより、当初下期計画より下回る見込み。



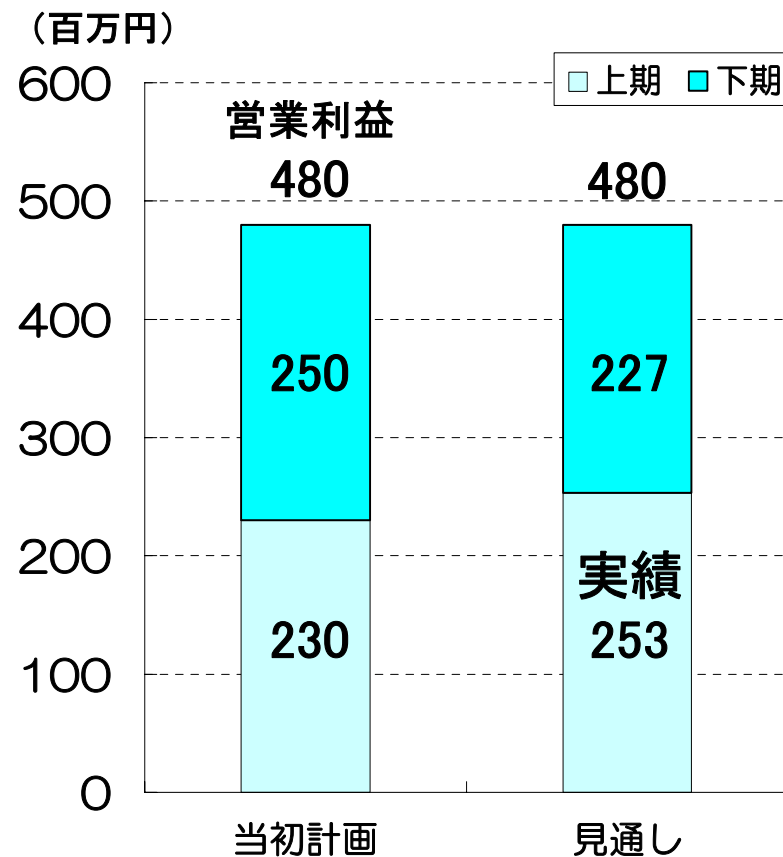
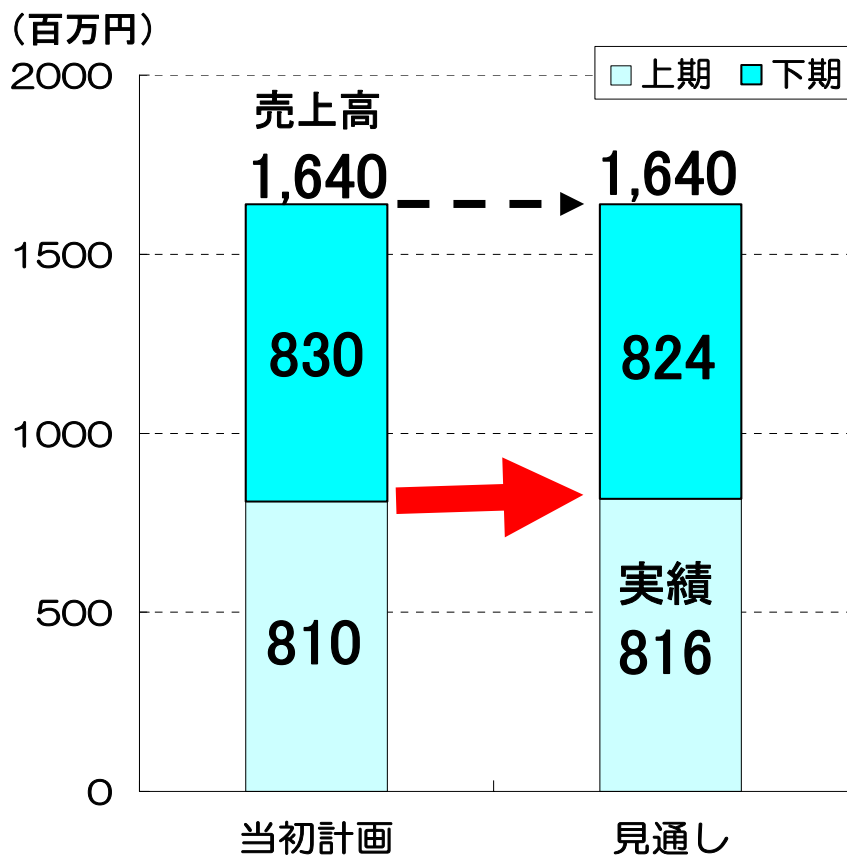
■ 化成品事業 通期見通し

- 下期売上高は、景気減速の影響で、上期実績より下回る見込み。
- 営業利益は、低価法適用による評価損の減少により増加する見込み。



■ ロジスティック事業 通期見通し

- 景気減速による荷動き鈍化があるものの、引続き好調をキープ。



3 . 今後の展望

■ 感光性材料事業 展望

- ・ FPD・半導体市場は着実に成長
- ・ レジスト市場は化学増幅系 (KrF・ArF・ArF液浸等) を中心に市場は拡大。
- ・ 将来へ向け製品開発体制強化

	液晶用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	EUV EB
ノード	～200nm	～100nm	～150nm	～90nm	～65nm	～32nm	45nm～22nm	32nm～16nm
アプリ	TFT LCD パネル	ハイスpekLCDTV 層間絶縁膜	携帯電話 PCB	ipod	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ Ipod nano	4コア Penryn GBメモリ TBメモリ	複数コア フォトマスク
市場	季節要因はあるが、 今後も成長	LTPS(PDA,カーナビ、 携帯電話)の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	・商業化 拡大	プロトタイプ露光機 販売中 露光機・材料開発中
対策	増産・拡販		生産プロセスの最適化			商業化		研究
	大型テレビ用感光材の開発 利益管理体制強化	高感度品の開発 一部商業化	・生産性向上	生産性向上 高解像度/高感度 化	高感度化 ポリマ設計	モノマー ポリマー 光酸発生材設計	光酸発生材設計 工程対応	初期化合物開発、 特許9件出願済み 海外特許2件出願済 高感度・低LER材料 開発中

■ エネルギー事業 展望

- ・ 量産品の出荷拡大
- ・ ニーズに応じたきめ細やかな研究開発

電解液・イオン液体

- ・ 継続的営業活動により、電解液・イオン液体（IL）の認知度UP（展示会出展など）
- ・ 電解液は徐々に商業化フェーズに入り、製品ラインナップと製造原価低減が必要
- ・ イオン液体の用途展開が徐々に拡大し、顧客への対応の迅速化が必要

市場

電解液

キャパシタ

- ・ 協業体制から商業化へ

対策

- ・ 量産品の販売開始
- ・ 製品ラインナップの充実
- ・ キャパシタとしての製品の特性・優位性を確認

イオン液体用途開発1

機能化学品として

- （電解質、潤滑剤、添加剤、導電性材料）
- ・ ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の研究が拡大

対策

- ・ 品質評価・性能優位性をアピール、評価を依頼
- ・ 素材メーカーとの協業展開

イオン液体用途開発2

プロセス化学品として

- （反応溶媒、抽出溶媒、吸収剤、蒸留）
- ・ 市場規模は小
- ・ 技術ハードルは高い

対策

- ・ イオン液体の開発強化
- ・ 市場ニーズの把握を実施

対策

■ 香料材料事業 展望

- ・ 大手香料メーカーに主力製品の販売が拡大。
- ・ 旺盛な需要に対応するため、生産能力を増強。

市場

- ・ お客様香料企業（国内・海外）好調
- ・ 低コスト・高付加価値製品が望まれている

国内

国内

- ・ 少子高齢化の進行
- ・ 香料市場は横ばい

対策

- ・ 特定分野の強化
- ・ 協業体制強化

海外

海外

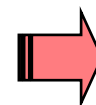
- ・ BRICs市場拡大
- ・ 世界主要香料会社によるM&A
- ・ Fragrance分野が伸長

対策

- ・ グローバル企業への対応強化
- ・ Flavor分野を強化

対策

- ・ REACH対応加速
- ・ 製造要素技術の充実
- ・ 新製品開発
- ・ 欧州に続き、グローバル販売チェーンの強化
- ・ 生産キャパシティ確保



市場開拓
価格競争力強化

溶剤回収事業 展望

● 全社の一翼を担う中核事業へ

- 原油高による溶剤コスト圧縮ニーズ
- VOC排出規制など環境関連法規強化
- 電子材料向け金属パーティクル管理された溶剤



溶剤回収ニーズ
急拡大

印刷・粘着業界

印刷・粘着業界
● 景気回復

対策
● 業界団体と協力強化

電子材料業界

デジタル機器業界
● 電子機器生産拡大
● 部材コスト圧縮要請

対策
● 感光材/エネルギーとの協業強化

他製造業

他製造業
● 地球温暖化対策,京都議定書問題 (CO2削減等)
● VOC規制施行 (2006)

対策
● ソリューション提示

市場

対策

- ロジスティックとの協業強化
- 蒸留50年の信頼、立地、技術、コストパフォーマンス
- VOC回収技術の確立、VOC回収装置会社との協業強化

■ ロジスティック事業 展望

- ・ 高付加価値サービスにより売上拡大

市場

- ・ 需要は引続き好調
- ・ 日本の景気減速で国内荷動きがやや鈍化

対策

- ・ 短期的契約でなく、長期契約を志向
- ・ タンク契約率97%
- ・ グリーンケミカル（回収溶剤）との協業強化
- ・ DRP対策（護岸）を実施



東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。